



ぴっぴだより No.3 2017, 6, 2

見えている景色が4月からがらりと変わりました。同時に、見えなくなっているものもあります。ご承知の通り入園の集い以来、ぴっぴの保育には入っていません。小学生を対象にしたぼろぴっぴは月二回。子どもたちと関わる日常から一時的に一步離れています。今の僕にとって、子どもたちとの関わりは日常ではなく非日常です。

子どもたちとの直接的・日常的な関わりはぐっと減りましたが、いろいろな地域の幼稚園や保育園、小学校や中学校、学童保育などの現場を訪問する機会が増えました。子どもが育ち、学ぶ様々な現場。そんな現場で僕は、子どもの姿を見ると同時に、子どもと関わる大人の姿を見ています。意識の比重としては子ども2に対して大人8くらいでしょうか。物珍しそうに近寄ってくる子どもには、敢えて距離を置く雰囲気に対応し、子どもと関わる大人の姿をじっくり観察していると(こう書くちょっと嫌な感じがすね…)、「僕はどんな保育をしている(していた)のだろうか…」と振り返ることがよくあります。

どの現場でも、実に子どもらしいやりとりが交わされていることがあります。そのような子ども同士の関わりが生まれるのは、必ずといっていいほどその場にいるのは子どもだけの時。つまり“子どもがつくる世界”が保証されている時です。もちろんそこに大人が居る場合もありますが、その大人は遠慮がちにそっとその場にいたり、もしくは“子どもがつくる世界”に居ることをしっかりわきまえて存在しています。大人の理屈からすると、不思議なこと、理不尽なこと、余計な時間がかかっていること、面倒なことが山ほどあるのが“子どもがつくる世界”です。そんな世界だからこそ、子どもは実にたくさんのご生み出し、自ら学び取っていきます。自分で遊び、自分で学ぶことを自然に繰り返していき、しっかりとタフに育っていくのです。

しかし、残念ながらそういう場面ばかりではありません。子どもがつくる世界に、「それが仕事だから」とでも言うように教えたがりな大人が立ち入り、その世界を“大人の色”に上塗りし、一気に子どもがつくる世界を破壊していくことも非常に多くあります。これが日常的に繰り返されると、子どもは自分で遊ぶこと、自分で学ぶことを止めます、放棄します。僕もそのように子どもの世界を、一気に大人の色に上塗りした経験はあります。大人の都合を押し付けたい、どうしてもコントロールしたいという衝動に駆られることはたくさんあります。そういった時には、「自分の言動は子ども世界を壊す可能性が高い。これをするので、子どもは自ら学ぶことを止めてしまうかもしれない。」ということ強く自覚した上で、今その時に上塗りする必要があるかどうか吟味しないといけません。様々な現場を訪問してみて、改めてそう強く思うようになりました。

ぴっぴマークは鳥、そしていわゆる卒園式は巣立ちの集いと名付けられていますが、「育つ」という言葉は「巣立つ」からきたという説があるそうです。多くの鳥は羽根のない状態で生まれ、しばらくは親鳥がせっせと世話をします。ぴっぴの森にもたくさんいるシジュウカラの場合、一日にひとつずつ卵を産み、数日かけて8~10個の卵を産み終わると抱卵し、雛は同じ日に孵化します。巣の中は雛でいっぱいになります。雛が生まれると、日中はオスメス共に数分おきに餌を運び、同時に雛の糞を持ち出します。雛が生まれたばかりで小さい時には、気温が低い日はメスが雛の上において温めていることもあり、夜間は必ず巣にいるそうです。しかし、雛がある程度大きくなってくると、親鳥が巣の中に立ち入ることにはなくなり、夜も巣の近くで親鳥は寝るようになります。そして、雛がさらに大きくなってくると、雛は羽ばたきの練習をし、巣立ちに向けて準備をし始めるのですが、これは親鳥が不在の間に行われることなのだそうです。子どもの育ちには大人の存在は必要不可欠ですが、それと同時に、子どもが自ら学ぶ力をしっかり身に付け、育っていくには、大人が“不在”であることが必要なのもまた事実なのです。

先日とある場所で、小学生たちが輪になって話し合いをしているところに居合わせました。二人の大人がその輪には加わっていません。話し合いは混沌としてきていて、相当時間がかかりそうな状況です。もし僕がその輪の中に入っていたら、何かしらの打開策を提示し、話し合いを終わらせる方向に動いていたかもしれません。上塗りです。しかし、その輪の中にいる大人の一人は、子どもと同じようなリズムで発言していました。そしてもう一人は、黙って子どもたちの様子を落ち着いた表情でゆったりと見守っていました。子どものつくる世界を邪魔せず、大人としての役割をしっかり果たしていたのです。素敵な在り方だなあと観察していたのですが、ふと、その二人の姿が、我が子が生まれた時にお世話になった助産師さんの姿と重なって見えてきたのです。

助産師さんといっても様々だと思いますが、僕が出会った助産師さんは大きく分けて3つの仕事をしていました。①リラックスして出産できるような環境を整える。②緊張をほぐし、呼吸を整えられるように声をかけたりマッサージする。③緊急時に備える。そういった仕事の根底には、赤ちゃんの自ら生まれ出ようとする力、お母さんの生み出そうとする力への確かな信頼があります。次の予定を意識して早く産ませようしたり、その助産師さんの理想やペースを押し付けたりは決してしません。母子に備わっている本来の力が最大限に発揮されるように関わり、「その時」を共に待ち、整える。同時に、万が一に備えて、しっかりと深い専門知識を身に付け、冷静沈着に行動できるようにトレーニングをし、経験も積み重ねる。あの時にお世話になった助産師さんの姿は、僕にとって保育者・教育者としての一つの理想像です。

子どもたちの姿から日常的に直接学ぶ機会は減りました。それは少し寂しいことでもあります。しかし、様々な現場、自然界、プロフェッショナルな仕事など、子育てについて、保育や教育の在り方についての学びのきっかけは、本当にいたるところにたくさんあります。変化した景色を楽しみながら、ひたすら学び続けていきたいと思えます。

慎之介

おおきくおめでとう

『おおくりさん』

新年度になって1ヶ月が経った頃、おおくりさんに聞いてみた事があったので時間をとりました。おは、次のおおきくおめでとうの日はおくりおくり電車の旅に出掛けます。くりさんは初めての電車の旅だからおおくりさんよろしくね。ということをお話しました。そして「おおくりさんになってしばらくたつけど、どう？」とアバウトな質問から始まりました。

礼「け、こう大変」 橋場「何が？」
礼「どんぐりさんが泣いてたり、どうしたの？って聞いてあげて。」 橋場「確かに大変だ。」
空太「昼寝とか出来ないさ〜」 立「オシ、昼寝やだ。」
とたれない世間話のような話し合い。この日は立風希、大権が休みでした。

橋場「おおくりさんになって、片付けがらいい人のお世話とか毎日がんばってるもんね。くりも大変だ。どんな おおくりさんになりたいの？」 聞いてみたいと思ったのは22です。

果乃が一番に「優しいおおくりさん。」
礼「無口なおおくりさん。」 橋場「何？無口って？」
礼「(辛い顔を以て)こうやってイタズラしても無口になるの。」 橋場「こう〜とか怒らな〜んだ！」
礼「どうどう」
空太「バカなおおくりさん！」とぶつけた動きをして 笑いを誘い
立「おれ、アホ！」と言い出しました。すると咲美が立を指差して「どうどう(立は)アホだ！」
みんなで笑っている
空太「だ、泣いてはるとき必要でしょ？」と急にいいことを言い出しました。
橋場「泣いている時、バカとかアホとかして笑わすの？ いいね〜」 空太・立「どうどう！」
みんなで大笑いです。 そんな中 集まりの大人の位置から見ていると子どもヒソヒソの表情が見えています。果乃は一瞬に笑いつつも何か考えています。そして「かのちゃん、優しいおおくりさんになりたい」と話しました。
咲美も おおくりになってから縄跳びを全部集めてくることに一生懸命な姿があります。その姿はみんなも知っていて、みんなに認めてもらっています。
後日、大権と立風希と話しをしました。大権は「片付けとかがんばって気持ち良くおもちゃを使えるようにする おおくりさんになりたい」 立風希は「優しいおおくりさんだね〜」
みんなとくしくん こんはおおくりさんになりたいという理想があることとおおくりさんになった実感が生えてきたようだと感じていました。

そしてまた一週間がたったおおきくおめでとうの日。この日は荷物置き場の仕事がありお弁当、水筒持参でお出掛けしました。1日お出掛けしたのが疲れていたと思います。帰ってきてすぐお片付けの鈴がなると天音と小悦己が「かのちゃんとさくらちゃんが片付けしていい！」と叫んでいます。果乃・立風希は腰に手を当てて「片付けないっ！」(ちよとニヤニヤしながらあが。) 橋場「片付けないのは何で？」 果乃「面倒だから(今日はあんまり遊んでないからな〜とは思いましたが)」
橋場「じゃあ、あのちゃんも小悦、くんは納得してないからみんなに自分で話してくれ？」という
果乃・立風希「あーいいよ！」と片付けをしないでふたりで帰りの集まりの場外で待っていました。この日はおおきくおめでとう全員の帰りの集まりでした。

そして みんなの前でふたりは「今日は、お片付けをしませんでした。何かというと面倒だから〜ふたりは腰に手を当てて話しています。天音、小悦己は怒った表情をしています。橋場「ということですか。」 「いいかな〜」とみんなに伝えます。まつぼくり女の子から「いいよ〜！」の声。ずいぶんこうにまりましたが、気を取り直し、また天音・悦己に「今日は面倒だったんだって。許してくれ？」 うーんとし込んでしまったか「いいよ」と何とか納得はしてくれました。明日は どうしますか？ と聞くと 腰に当てた手はひけない様子が。「明日は 明日日 奪えよ！」と果乃と立風希。
でも 去り際 果乃が「アホ(アホのおおくりさん)にしけば良かった〜」とつぶやきました。ちよと安心しました。本当に片付けをしたくなかったのではなく、たまには「アホ」にならなかつたのだということを知りました。本当は「片付けをがんばるおおくりさん」とか「優しいおおくりさん」とかで在りたいのだけれど たまには力を抜きたいときだってあるはず。そんなときは、友だちに話してみよう。「いいよ〜」「大丈夫だよ〜」と許してもらいたいよ。

おおくりさんになって1ヶ月。はりきっている気持ちも大切にしつつ、力を抜きたい時もあるようにしてあげたい。おおくりさんだって疲れたらひと休み。

「おおくりさんがんばって」「おおくりさんよろしく」とついで「おおくりさん おおくりさん」と言ってもらい、また肩の荷を増やしてしまふ〜と思うことも多いのですが、「そんなときもあるよ〜」と時々 がんばり過ぎてあげられる余裕をもってみていてあげたいなとは思っています。

きっと自分たちを考えると、明日は変えていこうと思ってる姿をみていると、一番の価値があるような気がします。
「こはががんばって！」 「こはががんばって！」と思うとこは「今は力を抜いて大丈夫なのを大人は丁寧にみてほしいな。そう考えていました。」

話し合いの時に大人の位置から見ていると子どもヒソヒソの表情が見え、考えていたり、笑ったり、困っていたりするものが良くわかります。きっと子ども同士も友だちの話しを聞くのに表情がみえたらきっともっと深い話し合いになるのではな〜いかな。円になるのもいいかもしれな〜い。などなど…。1313 模索しつつ歩んでいきたいと思っていました。

ヒソヒソが違っていいはず。背伸びしてながらがんばってみたい。時々力を抜いてみたり、そして1年経つころにはどんな おおくりさん になっているのかしら。いつもこの時のベストを尽くそうとしている子どもたちに応えるために 自分をベストを尽くせるように 感じて、考えて、いきたいです。

(尚名称略) : 美穂

田畑の様子

田畑は遠足。お疲れさまでした。小雨の中、子どもたちをほめて、たくさん
の皆さんが一生懸命植えてくださり、無事に田植えを完了され感謝の気持ち。
小豆と苗にはよくよく並んで風に吹かれ、気持ちよくにも根を伸ばし
始めています。

稲の苗を自分で作るというため、天候によって伸び具合が毎年違い、収穫が
事前に田植えの日程を予測するのが難しい。今年も直前のお天気に
なってしまう。5月としては異常な遅延前の暑さのせいも苗が伸び
やすと伸び。暑さで黄色く焼けたものもあり、さらには代かきか雨と寒さで
遅延先に伸びる苗がまれ。今年もベストタイミングで田植えを予定との
難しさを感じました。

私が田植えを始めてもう15年ほどにすぎず、田畑のことは天候の具合や
温度を見ながら、土壌の水分と種をまいて準備しますが、成長の様子も
当然前の年とは異なるが毎年違い、前年と同じという事は二度とありません。
その時々で苗の様子を見て水の量を調整し、かいているピエールを閉閉して
毎年試行錯誤です。私が自然農法を教わっている、故美奈津農夫さんは
よく「稲の気もちに任せて、今後は何をしようか考える。土と手を交わして
わかるものか、じっと見守るのか。」とおっしゃいました。今の田植えの師匠の猛進
も「あまり過保護にピエールを閉閉閉めると苗が弱くなる、環境に適応
できるとは適度にやる方が強く育つ。羊も一緒、手を交わして「お父さん」と。
「その時々をよく見て適度に適度に」がコツのようです。田植えのあと雨で
増水して田の水を放水しては、「湯たて水は決して捨てるな！
養分が沢山入っているから、捨てるのは養分が流れていくことになる。」
と猛進さんに言われて知らず知らず一と命がけです。15年やってもまだ「お父さん」
という呼び名がある。田植えの師匠です。

そして、いま畑には種をまいたカブと人参が芽を出しているのか！ じかにも
は植えて時期に雨が少なくてカラカラの土に種も植えてから発芽
が遅い。一週間経つ、雨が沢山降った日に植えても種もの方が早く
早く芽を出るのであるから、畑仕事のタイミングが難しい。今年もおおきく
カブや人参がある程度決まっていたので、雨が降ったからといって、じゃあ明日は
田畑作業にしよう、とはまだ出て来ず、やがやの難しさを感じてきました。

そして、間引いた野菜も、ラントには使わなかったが、おおきくみのお料理の日は、
子どもたちが食べたものを自分たちで考えるメニューの方がいいと思う...とある
田畑と料理を連動させて考えることが、でも、新しいスタッフがかわり、くれた
ことで、「お天気がよさそうだから明日は田植えに行こう...」とか、この野菜を間
引いたから、おおきくみでこんなお料理してみたい？とか、もう少し低温栽培に
してもいいのでは？と声があがり、早速「このところせっかく田植えの仕事をがんばり
きたから、次のお料理はかつりお米と向き合うというのには？」というアイデア
が生まれそうです。そこで5月29日のおおきくみの料理は「合点うどん」を合点を焼い
ておにぎり作り！と頑張ったのです。自分たちで育てたお米を研いて、火を死して
合点を焼く... 新しい体験、おいしい体験に頑張ったようです。今年ではこうしてきて、
子どもたちはこんな風に再び組んできたね、成果をあげてきたね... でも、これ
今年も同じようにやる必要はないのか？ その時々の時の子どもたちの様子、天候の
具合、田畑の状態をよく見て、よく考え、今年とは何が出来るのか、その程度
スタッフみんなで知恵を出し合う... 日々話し合いを重ねながら、少し新しい
風が吹いてきたように感じています。 : 美奈子

ハルニレの木の実は 5月11日



緑の美しい季節になりました。この季節、外を歩いているとどなたかの緑色が自然
の中にはあるのだらうと、木々の葉から緑をみては、とりしてしまいます。そんな緑色の
季節にうす黄緑色のかわいらしいハート型の実(種)をつける木があります。

春まだ寒い時期に茶色のそれは地味な花を咲かせ、早くも実をつけているのは
「ハルニレ」です。漢字で書くと「春楡」です。名前には聞いたことがあるけれど、どなた
ハルニレなのか？と思われる方が多いかもしれません。

ハルニレが生えているのは沢ぞいや谷あい、湿地帯の近く、などと少し湿り気
のある場所です。栄養分が少なく、細い木が多い草刈りの森の中で
割と巨木が多く、中にはコナラなども生えています。風格のある感じの木が多
です。それは浅間山の噴火などを水辺に生えているためにまぬがれ、古来からの
姿を保っているからなのでしょう。

ハルニレの木をみかけるとはんだか中、たりに緑やかな気分を手にするのには
その「時」をハルニレから感じるからでしょうか。

また、西洋ではハルニレの木の下で寝を誓うと一生幸せになれる... とい
い伝えもあるとか... びっぴの森にもありますので、この時期は黄緑色の
ハート型の種を手がかりにぜひ、ハルニレを探してみてもいいね!

: 菜々葉

お知らせ

・ピッキオの方による熊のお話

子どもたちの「熊の避難訓練」に合わせて、ピッキオの熊チーム田中さんがバードックのママを連れて来訪して下さい。軽井沢の熊についての話を聞いて下さるのをご保護者の皆さまもどうぞご参加下さい。

日時 6月14日(水) 13時30分～ ひびの森

・ひびの森の健診

初夏のひびの森で 園医の根津純子 Dr. (かみざわ純クリニック) による健診を行います。

日時 6月20日(火) 13時頃～

健診内容 内診・触診

- ・当日、内診しやすい衣類をご配慮下さい。
- ・根津純子 Dr. にお聞きしたいことがありましたら事前に知らせて下さい。
- ・おぐいお伝えすべきことがありましたらお知らせ頂ければ、「健康診断」の記録に記入後、お返しします。捺印後、ひびにお戻り下さい。

・6月の小さな茶話会

5月は新緑の森の空気と音とおしゃべりを楽しめたので、6月はのんびり室内で「消レゴいほんこ」を作って遊びながらお茶とおしゃべりの時間を楽しみたいと思います。

日時 6月21日(水) 9時30分～12時30分頃

担当 橋場美穂 バガレメインホール

持ち物 カッター。お持ちの方はカッター盤

- ・消レゴいは、こちらで用意します。
- ・メインホールは、お迎え時間までお使いいただけます。

・今月の予定 8日(木) ほろびび 保護者会 (メインホール)

14日(水) くるみの日

16日(金)～17日(土) ひびお泊り会

21日(水) ひび社員総会

23日(金) ひびの森開放日。

・今月の森づくり

日時 6月25日(日) 9時頃～

作業内容 おまきと桐等道具作り。保護エリア掘り起こし。その他。

持ち物 軍手、金槌、剣先スコップ、等。

ご参加いただける方は、お知らせ下さい。

・どんぐりさんへ新しいお友だちが入園します

新井 翔々くん (2014. 8. 22 生れ)

お父様は、健一さん お母様は、^{リビ}利子さん

6/2(金)～入園予定。どうぞよろしくお願ひいたします。

・おおきくすの予定

えりんこたいぞう 6日(火)、20日(火)

アートの日 12日(月)、26日(月)

6/5(月) 田んぼ 6/15(木) (お出かけ)

6/19(月) マグロの日は田んぼ。 <リ>おしゃべりは電車の旅

6/29(木) (田んぼ) お料理日は黒板にてお知らせします。

・6/5～6/30のほけ開所日

(5日) 7日(水) 8日(木) 9日(金) 12日(月) 14日(水) 15日(木)

(22日) 23日(金) 26日(月) 28日(水) (29日) 30日(金)

休みの日、田んぼ、畑、活動期は、おおきくすの予定やほけ開所日がお天候によって変動することがあります。ご理解下さいませ。お願ひいたします。